

学校法人

幼稚園型

認定こども園 中関幼稚園（山口県防府市）

職員数：44 名 在籍園児数：189 名（令和4年2月時点）

【子育て支援事業】

元臨床心理士の園長や養護教諭の有資格者など、発達障害の支援について詳しい教職員が勤務する。山口県の支援センター等と連携を取りつつ、子どもの成長に気になる面がある保護者に、共感性を持った子育て支援を行う。

- ・季節行事に合わせた親子の交流イベント／幼児教育などの講演会／園庭開放「なかよしサロン」（地域の親子が交流する場の開設、交流の場での情報提供・相談支援事業）
- ・保護者の悩み相談（家庭への情報提供・相談事業）
- ・一時預かり（※幼稚園型のみ）（一時預かり事業（施設型））
- ・総合支援学校・支援センターとの連携（保護者と子育て支援者の連絡・調整事業）

◆年間利用者数：交流イベント・教育講演会：950 名、悩み相談：40 名、一時預かり：約 3,500 名

◆財源 ：自主財源のほか、一時預かり事業（幼稚園型）を活用

子育て支援事業の内容

●季節行事に合わせた親子の交流行事／幼児教育などの講演会

【概要】

日 時	各行事・講演会を年 1～2 回程度開催
場 所	園庭・ホールなど
担当職員	子育て支援事業専任の保育教諭 2 名【正規教諭 1 名、非常勤講師 1 名】 補助 5 名【助教諭（幼稚園臨時免許・養護教諭）1 名、養護教諭（養護教諭・保育士）1 名、 教諭（幼稚園教諭・保育士）1 名、非常勤保育士（保育士）1 名、事務職員 1 名】
対象者	防府市在住の未就園児・保護者
園や職員の役割	取組の企画・実施

- 地域の未就園児と保護者に向け、餅つき・夏祭りなど、季節行事に合わせた親子の交流行事を実施している。
- また、幼児教育の専門家や小学校教員による教育講演会や、保護者世代を対象にスマートフォンやネットリテラシーをテーマにした講演会（「幼・小・中・高校の発達段階別ネット利用のあり方と、保護者がわが子の利用状況を監視・制限するペアレンタルコントロールの重要性」等）を年 1～2 回ほど開催している。



地域からも多くの参加者が来る夏祭り

【取り組む上での工夫】

保護者が関心を持つ幅広いテーマで講演会を実施

- 同園では、親子の交流行事や講演会は、地域の子育て家庭とのつながりを作るきっかけづくりと位置付けている。親子の交流行事や講演会をきっかけに、園庭開放など他の子育て支援も気軽に利用してくれれば、と考えている。
- そこで、講演会のテーマは子育てだけにとらわれず、例えばスマートフォンの使い方など、保護者が関心を持ってくれるものを選んでいる。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

子育て相談の拠り所となるべく、講演会を開催

- 園庭や園舎内の遊具を自由に使える遊びや、七夕、餅つきといったイベントには参加者が多いが、教育講演となると参加者が非常に少なくなるという課題があった。保護者のニーズが多様化するとともに、キャラクターショーなどの楽しいものでないと興味を示さず、講演などは敬遠される傾向にあることがわかった。
- しかし、核家族化の進行の中、子育てに対する不安を抱える保護者は増えている。参加者が少なくても開催し続けることが重要であり、そのことで子育て相談の拠り所として保護者に認識されてきている。

地域イベント参加者に主催側への参画を呼び掛け

- 夏祭り、餅つき等のイベントは、幼稚園 OB や台唐保存会等の地域の皆様の協力のもとに進めてきている。しかし、その人材は固定化しており、世代交代が進んでいないので、高齢化が進む中、お手伝いできる人々が減少している。
- このため、イベントに来られる参加者に向けて、お客さんとして参加するだけでなく、僅かな時間でも主催者側に立って参画していただく形態を模索している。
- 園としては、新しい形態が徐々に動き出している印象を持っており、コロナ終息後に、本格的に動き出すと感じている。



台唐（だいがら）も登場する餅つき
※台唐…足踏み式の杵と台が付いた臼

●園庭開放「なかよしサロン」

【概要】

日 時	毎月2回(隔週 10:00～11:00)
場 所	園庭・子育て支援専用室 ※感染対策のため、現在は在園児用の広いプレイルームを使用
担当職員	子育て支援事業専任の保育教諭2名【正規教諭1名、非常勤講師1名】 補助5名【助教諭(幼稚園臨時免許・養護教諭)1名、養護教諭(養護教諭・保育士)1名、 教諭(幼稚園教諭・保育士)1名、非常勤保育士(保育士)1名、事務職員1名】
対象者	防府市在住の未就園児・保護者
利用登録	必要
園や職員の役割	場所の提供、取組の企画・実施

- 園庭開放という名称ではあるが、園庭だけでなく園の子育て支援専用室（※感染対策のため、現在は在園児用の広いプレイルーム）も活用し、親子が交流するための催しなども行っている。
- 例えば、絵や工作などの親子での創作活動や、絵本の読み聞かせ、保護者同士や保護者と保育教諭との交流を行っている。
- 室内で催しを行った後、子どもが園庭で遊び、保護者同士が会話する時間となっている。



経験豊富な教員による子育て談話

【取り組む上での工夫】

親子や保護者同士の交流が進むような催しを行う

- 園庭開放は、60代後半のベテラン保育士が対応している。経験豊富な保育士がいるだけで、園庭開放にはじめてくる保護者や子どもも安心している。
- 催しは、親子で活動できるもの、親同士が会話しないと先に進まないもの、例えば、「ずいずいづっころばし」、「お茶を飲みに来てください」などのわらべうた、七夕飾りづくりなどの共同制作などを取り入れて、保護者同士の交流が進むようにしている。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

子育ての悩みを保護者同士で共有できるように促す

- 園庭開放で定期的に来園する保護者同士が、子育ての悩みを話したりすることもある。また、子育て支援事業専任の保育教諭が、未就園児の保護者からの育児相談を受けることもある。



おやつタイムで保護者同士の交流も進む

- そこで、保育教諭が育児相談を受ける場合は、一方的に答えを言うのではなく、他の保護者に話題を振り、同じ立場の保護者からも話をしてもらうようにしている。保護者同士で悩みをお互いに共有できるように心掛けている。
- 相談した保護者も、他の保護者の意見や子育ての様子を聞くことができ、今後の子育ての参考になる。

●山口県の総合支援学校・支援センターとの連携

【概要】

日 時	不定期(相談があり次第随時)
対象者	防府市在住の未就園児・保護者
園や職員の役割	保護者に相談機関や支援団体等を紹介



山口県乳幼児の育ちと学び支援センターの専門家と協議し、保育の様子を参観いただき助言を受ける

- 同園は、山口県の総合支援学校（特別支援学校）や、山口県乳幼児の育ちと学び支援センター・やまぐち総合教育支援センターなどと、発達支援が必要な子どもに関する情報交換を積極的に行っている。
- また、同園の在園児と保護者や、園庭開放を利用する未就園児と保護者に発達支援の相談が必要と判断した際は、各センターの相談事業を紹介している。

【取り組む上での工夫】

時間をかけて子どもや保護者とのやりとりを行う

- 親子に支援センターを紹介する必要があると判断するまでは、保護者とのやり取りと、子どもの様子観察に時間をかけている。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

決めてかからず、安易に答えを出さないようにする

- 同園は園長（元臨床心理士）をはじめ、養護教諭の資格を持つ保育教諭など、発達障害の支援教育の知識を持つ教職員がおる。そのこともあり、近年は、子どもの発達にまつわる相談も多い。
- ただし、発達障害の知識を持っているからこそ、保護者の相談に決めてかからないように心掛けている。保護者は心配ゆえに園からのアドバイスを求めるが、アドバイスにより保護者の不安を増大させてしまうこともある。
- そこで、子どもの発達には個人差も多いので、すぐには問題があるなど判断しないようにする。園庭開放など親子との関係を構築し、その上で、必要だと判断できる場合のみ専門機関などを紹介する。

子育て支援事業を更に充実させていく上での課題・要望

- 人材育成が課題だと感じている。OJT 教育で新人教諭を育てているが、時間もかかり大変である。
- 年齢面での配置構成も難しい。新人の正規の保育教諭と経験豊富なパート職員という配置になることも多いため、中核となる職員を育成する仕組みづくりが必要である。

子育て支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携状況

- 系列法人が運営する幼保連携型認定こども園きんこう第 2 保育園が地域子育て支援拠点事業を行っている。
- 幼保連携型認定こども園きんこう第 2 保育園の地域子育て支援拠点事業担当保育教諭が来園し、中関幼稚園在園児の保護者に向けて遊びのレクチャーや相談対応を行っている。

【子育て支援事業で大切にしている思い】

保護者や保護者の抱える悩みに向き合うには、謙虚さが必要だと考えています。どんなに知識や技術を身に着けていても、共感性がなければ保護者の方に受け入れていただけません。また、共感性が大切であるということは分かっている、保護者の価値観の多様化が進む中で共感することが難しい事例も増えてきています。このため、保育教諭には、多様化する保護者の気持ちや生活の状況を慮れる能力が求められています。
さらに、情報化が急速に進展する中で、ICT は重要なツールとなると考えられます。しかし、利便性が高まる一方で情報に惑わされるという面もあり、多くの情報からの確に情報選択・処理ができる能力も求められています。子育て支援に必要な情報の収集、全職員での情報共有など有効な手段となることが考えられます。保護者の姿は様々に見えますが、その奥にある保護者の思い、苦悩などを慮れることが大切であると思います。
また、どのこども園でも課題になっているかと思いますが、本園でも年齢構成にバラつきがあり、若い保育教諭が多く、経験年数の短さから即応的な対応になりがちです。本来、職場において、教えられ育てられていたであろう資質や能力が育たない時代でもあります。結婚・出産等を区切りとして退職し、のちにパート職員として復帰する教員も増えていますが、職場において一歩引いてしまいがちです。このため、新採用職員が即戦力となるように、OJT を積極的に進めています。本園では毎週金曜日に、時間をかけてケース会議を行うとともに、保護者への対応や外部機関との連携等においても、園長がモデルとなって対応しています。また、園内の特別支援教育コーディネーターを中心とした会議や、教育相談等の外部研修の受講ならび受講後の園内研修での共有を行っています。教員の知識・技能の獲得とともに、感性の育成を図っています。
私たちは幼稚園創立以来、大切にしてきた教育者としての思いがあります。それは、「子どもたちの心声を聴く保育・教育」ということであり、時代がどのように変わっていこうとも、私たちは、この思いを大切にしながら、輝かしい「子どもたちの未来」に責任をもって保育・教育を進めていきたい、また、この思いを若い教員にも継承していきたいと考えています。時代を超えても大切にしなければならないことは、まずは率先垂範したいと思います。